

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月13日
【四半期会計期間】	第47期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	株式会社ニチリョク
【英訳名】	NICHIRYOKU CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼社長執行役員 寺村 久義
【本店の所在の場所】	東京都杉並区上井草一丁目33番5号
【電話番号】	(03) 3395 - 3001
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼専務執行役員 矢田 欣也
【最寄りの連絡場所】	東京都杉並区上井草一丁目33番5号
【電話番号】	(03) 3395 - 3001
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼専務執行役員 矢田 欣也
【縦覧に供する場所】	株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第46期 第3四半期 累計期間	第47期 第3四半期 累計期間	第46期
会計期間	自平成23年 4月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 4月1日 至平成24年 12月31日	自平成23年 4月1日 至平成24年 3月31日
売上高(千円)	2,288,940	2,361,738	3,453,016
経常利益又は経常損失() (千円)	122,462	128,005	135,625
当期純利益又は四半期純損失 ()(千円)	112,876	89,957	58,637
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金(千円)	1,306,842	1,306,842	1,306,842
発行済株式総数(株)	13,741,014	13,741,014	13,741,014
純資産額(千円)	3,488,148	3,407,729	3,644,535
総資産額(千円)	9,835,930	10,561,127	10,217,786
1株当たり当期純利益金額又は1 株当たり四半期純損失金額() (円)	8.67	7.12	4.51
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
1株当たり配当額(円)	-	-	7.5
自己資本比率(%)	35.5	32.3	35.7

回次	第46期 第3四半期 会計期間	第47期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成23年 10月1日 至平成23年 12月31日	自平成24年 10月1日 至平成24年 12月31日
1株当たり四半期純損失金額() (円)	1.24	2.54

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

4. 「持分法を適用した場合の投資利益」については、子会社及び関連会社がないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、欧州債務危機や海外経済の低迷等のリスクが存在する中、経済再生に向けた大胆な金融緩和による景況感改善への期待感から、為替や株式市場に明るい兆しを見せております。

しかしながら、将来不安等に起因して、個人消費は依然低調に推移しており、先行きは未だ不透明な状況となっております。

当社が属する供養産業におきましても、死亡者が年々増加しているにもかかわらず、霊園事業においては、購買意欲の減退に伴う霊園への来園顧客数は依然減少傾向にあります。葬儀事業では、葬儀の小規模・地味化傾向が一層顕著となると共に価格競争が激化し、顧客単価下落という厳しい状況にあるものの、家族葬を中心としたラステル葬儀が顧客からの支持を受け、葬儀売上に貢献した結果、当社の売上は前年同期に比べ増加いたしました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における業績は、売上高23億6千1百万円（前年同四半期比3.2%増）、営業損失6千1百万円（前年同四半期営業損失7千6百万円）、経常損失1億2千8百万円（前年同四半期経常損失1億2千2百万円）、四半期純損失8千9百万円（前年同四半期純損失1億1千2百万円）となりました。

各セグメントの状況

< 霊園事業 >

従来式の屋外墓地につきましては、比較的高価格となる墓地墓石の買い控え及び小規模区画墓地傾向が続く環境下、一つのお墓に多数のお骨を収める共有墓の募集等を進めましたが、売上高は10億1千万円（前年同四半期比17.1%減）となりました。

< 堂内陵墓事業 >

堂内陵墓第四号「覚王山陵苑（名古屋市千種区）」は、計画通り順調な販売実績をあげております。売上高は4億4千7百万円（前年同四半期比21.3%増）となりました。

< 葬祭事業 >

葬儀の地味化傾向が一層顕著となり施行単価が下落しております。一方、従来の葬儀の流れである、葬儀社主導の葬儀施行の形態を変革することを目的として、家族葬・直葬を主体とした当社独自のブランド、「ラステル(ラストホテル)」を立ち上げました。第一号の「ラステル久保山（横浜市西区、平成22年6月開業）」、第二号の「ラステル新横浜（横浜市港北区、平成24年6月開業）」は、葬儀の小規模化を望む現代の顧客ニーズに応えると共に、抜群の立地並びに設備も兼ね備えており、葬儀部門の売上に大きく貢献しております。売上高は9億4百万円（前年同四半期比28.8%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末における資産合計は、105億6千1百万円となり、前事業年度末に比べ3億4千3百万円増加いたしました。

流動資産は、前事業年度末に比べ、1億9千6百万円減少し、35億8千9百万円となりました。その主な要因は、現金及び預金1億2百万円及び永代使用権1億1千2百万円の減少によるものです。

固定資産は、前事業年度末に比べ、5億3千9百万円増加し、69億7千2百万円となりました。その主な要因は、霊園開発協力金7億9千万円の増加、長期貸付金1億6千9百万円の減少によるものです。

流動負債は、前事業年度末に比べ、7千7百万円減少し、34億9千8百万円となりました。その主な要因は、未払法人税等8千7百万円の減少によるものです。

固定負債は、前事業年度末に比べ、6億5千7百万円増加し、36億5千4百万円となりました。その主な要因は、長期借入金5億8千7百万円の増加によるものです。

純資産は、前事業年度末に比べ、2億3千6百万円減少し、34億7百万円となりました。その主な要因は、利益剰余金1億8千5百万円の減少によるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

特記すべき事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	48,000,000
計	48,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月13日)	上場金融商品取引所名又 は登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	13,741,014	13,741,014	大阪証券取引所 JASDAQ市場 (スタンダード)	単元株式数 1,000株
計	13,741,014	13,741,014	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	13,741,014	-	1,306,842	-	958,082

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,156,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 12,567,000	12,567	-
単元未満株式	普通株式 18,014	-	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	13,741,014	-	-
総株主の議決権	-	12,567	-

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(株)ニチリョク	東京都杉並区上井草一丁目33番5号	1,156,000	-	1,156,000	8.41
計	-	1,156,000	-	1,156,000	8.41

(注) 当第3四半期末(平成24年12月31日)の自己株式は、1,240,086株(発行済株式総数に対する所有株式数の割合9.02%)となっております。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成していません。

1【四半期財務諸表】
(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,391,890	2,289,011
完成工事未収入金	103,277	17,803
売掛金	111,903	99,804
永代使用権	630,272	517,372
未成工事支出金	305,635	291,403
原材料及び貯蔵品	75,929	129,875
その他	166,733	243,815
貸倒引当金	29	15
流動資産合計	3,785,611	3,589,070
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	477,284	1,193,908
土地	1,136,101	1,535,523
その他(純額)	1,079,831	34,199
有形固定資産合計	2,693,217	2,763,632
無形固定資産	115,098	58,230
投資その他の資産		
長期貸付金	355,725	186,304
霊園開発協力金	1,196,546	1,987,263
その他	2,117,309	2,011,487
貸倒引当金	45,723	34,861
投資その他の資産合計	3,623,857	4,150,194
固定資産合計	6,432,174	6,972,057
資産合計	10,217,786	10,561,127
負債の部		
流動負債		
買掛金	69,303	59,647
短期借入金	524,402	628,604
1年内返済予定の長期借入金	1,802,354	1,819,504
1年内償還予定の社債	398,000	348,000
未払法人税等	87,885	-
賞与引当金	28,500	11,300
その他	665,639	631,899
流動負債合計	3,576,085	3,498,956
固定負債		
社債	333,000	392,000
長期借入金	2,288,651	2,876,471
退職給付引当金	235,816	234,505
役員退職慰労引当金	139,398	151,164
その他	300	300
固定負債合計	2,997,165	3,654,442
負債合計	6,573,250	7,153,398

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,306,842	1,306,842
資本剰余金	958,082	958,082
利益剰余金	1,577,852	1,392,008
自己株式	172,964	226,991
株主資本合計	3,669,812	3,429,941
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	11,353	4,865
繰延ヘッジ損益	13,924	17,346
評価・換算差額等合計	25,277	22,211
純資産合計	3,644,535	3,407,729
負債純資産合計	10,217,786	10,561,127

(2) 【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	2,288,940	2,361,738
売上原価	818,496	809,456
売上総利益	1,470,443	1,552,281
販売費及び一般管理費	1,547,140	1,613,924
営業損失()	76,697	61,642
営業外収益		
受取利息	12,909	4,494
受取配当金	11,044	11,044
業務受託手数料	-	12,857
違約金収入	8,840	-
その他	33,052	26,296
営業外収益合計	65,845	54,691
営業外費用		
支払利息	81,865	91,510
その他	29,745	29,543
営業外費用合計	111,611	121,054
経常損失()	122,462	128,005
特別利益		
受取和解金	-	17,000
固定資産売却益	523	-
特別利益合計	523	17,000
特別損失		
固定資産除却損	32	5,621
特別損失合計	32	5,621
税引前四半期純損失()	121,971	116,626
法人税、住民税及び事業税	6,410	6,269
法人税等調整額	15,506	32,937
法人税等合計	9,095	26,668
四半期純損失()	112,876	89,957

【会計方針の変更】

(減価償却方法の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

1

前事業年度(平成24年3月31日)

霊園開発評価損失引当金429,959千円を差し引いて計上しております。

当第3四半期会計期間(平成24年12月31日)

霊園開発評価損失引当金429,959千円を差し引いて計上しております。

2 保証債務

次の法人の借入債務に対して、債務保証を行っております。

債務保証

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
宗教法人大徳院(三菱商事テクノス株からの割賦債務に対する保証)	2,274,634千円	2,274,634千円
計	2,274,634	2,274,634

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	111,569千円	132,962千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	98,308	7.5	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月25日 定時株主総会	普通株式	95,886	7.5	平成24年3月31日	平成24年6月26日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	霊園事業	堂内陵墓事 業	葬祭事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,218,258	368,549	702,132	2,288,940	-	2,288,940
セグメント利益又は損失()	226,151	146,131	72,368	444,651	521,348	76,697

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 521,348千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用を計上しております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	霊園事業	堂内陵墓事 業	葬祭事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,010,020	447,089	904,628	2,361,738	-	2,361,738
セグメント利益又は損失()	183,627	196,597	44,729	424,955	486,597	61,642

(注)1.セグメント利益又は損失()の調整額 486,597千円には、各報告セグメントに配賦していない全社費用を計上しております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2.セグメント利益又は損失()は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額	8円67銭	7円12銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(千円)	112,876	89,957
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純損失金額(千円)	112,876	89,957
普通株式の期中平均株式数(千株)	13,025	12,642

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月8日

株式会社ニチリョク
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 古谷 伸太郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野田 裕一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ニチリョクの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第47期事業年度の第3四半期会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ニチリョクの平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。